



水稻編



病害虫注意報
2018年9月作成

※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

刈り取り後の除草

刈り取り跡に雑草が生えている田んぼは、今しっかり防除を行うことで次作が楽になります！

次作までに時間がある場合

コロレートS



- ・適用：一年生雑草・多年生イネ科雑草
- ・稲わらの上からでも効く
- ・水が溜まっている所では効果半減
- ・次作植付まで3カ月程度期間をあける

- オモダカ 30～40kg(6～8袋)/10a
 - 一年生雑草・多年生イネ科雑草 20～25kg(4～5袋)/10a
- 水稻刈取後全面土壌散布(秋期雑草生育期)
※回数制限なし

- ・オモダカ防除には刈取後すぐの散布が効果的！
- ・散布は年内に
- ・降雨時(降雨が予想される時)は散布しない(効果の減弱、河川への流出を防ぐ)

次作までに時間がない場合

ラウンドアップ マックスロード



- ・適用：一年生雑草・多年生雑草
- ・ヒエ、セリ、クログワイ、オモダカ、カヤツリグサなどの防除困難な雑草に！
- ・土に残らず分解が早い

- 薬剤500～1000ml/10a(希釈量10aあたり通常50～100L、少量25～50L)
- 雑草生育期(水田刈跡/1回)

- ・雑草が緑化している時期に散布
- ・刈取直後 薬剤500～1000ml、もしくは、3～4月の水田耕起前 薬剤 200～500mlがおすすめ

刈取後のジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)防除

○表土がある程度乾いて硬い状態の時に、貝をつぶすようにゆっくりと耕起する。

※ロータリー回転は速く、走行速度は遅く！

○用水路も主要な越冬場所です。出来るだけ落水・乾燥・清掃するようにして下さい。



1月上旬～2月上旬に耕起すると、貝が潰れることでの物理的な殺貝効果だけでなく、残った貝も寒気に曝されることで死滅します。冬場の耕起は1回だけでなく複数回おこなうと殺貝効果さらにアップします↑↑

稲ワラの腐熟剤

分解を早め、浮きワラ軽減・ガス害防止に！

粒状ペルカ(石灰窒素) 20kg(1袋)/10a

★刈取後、すき込むことにより、稲わらを土中で堆肥化することが可能！
堆肥同等の貴重な地力栄養資源として活用できます★